

義経伝説「ロマンいっぱい」

県内外の20人 伝承残る土地訪ねる

朝
日

歴史探検「朝日町の義経伝説



を訪ねる」が5日、同町で行われ、源義経の伝承が残る土地を訪ねた。

町エコミュージアム案内人の会が主催。町内の歴史を調べている同案内人の安藤竜二さん(62)によると、同町にも義経一行の伝説が

源義経一行の物とされる「笈」に記された「武蔵」の文字を示す最上俊一郎宮司(右)

朝日町・浮嶋稻荷神社

残っており、福島県会津から長井市を通って朝日町に入り、北上したとされる。

県内外から20人が参加。

安藤さんが案内し、義経の妻・北の方が子を産んだと伝わる「子なし沢」や、その上流に位置する国指定名勝「大沼の浮島」を回った。

浮嶋稻荷神社の最上俊一郎宮司(78)は、義経一行が宿代の代わりに置いていったとされる「笈」(運搬用の木製箱)を披露し、「武蔵」の文字が記されていることなどを解説した。

宮城県富谷市から家族3人で参加した堀江智子さん(55)は「ロマンいっぱいの地域で、初めて聞く話ばかり。また訪れたい」と笑顔を見せた。(色摩高幸)

山形新聞

2026年(令和8年)7月11日(土曜日)